

ジャパンエキスポに出展します

「Tatamisé(タタミゼ)」というフランス語があるそうです。畳の上で生活するなど、日本風の室内装飾や様式を取り入れることを表し、転じて「日本通」や「日本かぶれ」のことを指すそうです。「Manga(マンガ)」や「Bonsai(ボンザイ)」、「Futon(フトン)」、「Otaku(オタク)」などがフランス語としてそのまま通用していることは知っていましたが、フランスにおける日本文化の浸透ぶりは、想像を超えるものがあるようです。

そのフランスのパリ市で7月2日から5日までの間、開催される「第16回ジャパンエキスポ」に高松市が展示宣伝ブースを出展することとなりました。主催者が日本の一都市を選んで紹介するツーリズム展示の枠に本市が選ばれたため、この展示は京都市、福岡市、札幌市に次いで4番目です。これは、昨年10月に本市で開催した「第4回日仏自治体交流会議」がフランス人に好評を博した成果の一つであり、真に光栄なことであると思います。

このジャパンエキスポという催し。日本文化の情熱的なファンであったフランス人の若者数人が2000年に始めたイベントで、日本のマンガ、アニメ、ビデオゲーム、モード、音楽、武道、ハイテク、伝統などを網羅した日本カルチャーの見本市です。昨年は24万人を超える来場者を集めたとのことで、海外で開催される日本文化を紹介するものとしては今や世界最大級のイベントと言われるまでになっています。

高松市ブースのコンセプトは、「～高松の「Kawaii!」を世界へ発信～」です。日本発のポップカルチャーに高い関心を持つ若者を中心とした来場者に対し、これもフランス語化している「Kawaii(カワイイ)」をテーマに高松ならではの魅力を発信したいと考えています。栗林公園、瀬戸内海、現代アート、お遍路などの観光資源について、写真を用いて紹介するとともに、讃岐かがり手まりや盆栽、鉄製ロボットの展示、和三盆糖菓子の製作実演・試食などを行います。そして現地では職員が白衣のお遍路姿でお接待をする予定です。

この出展を機会に「Takamatsu(タカマツ)」という都市を多くのフランス人に知ってもらうとともに、「Bonsai(ボンザイ)」に続き、「Wasanbon(ワサンボン)」や「Henro(エンホ)」、などがフランスで人口にすることを期待したいと思います。